

自己評価結果公表シート / 例 1

本園の教育目標

幼児の心身ともに健全な成長発達のために適切な環境を用意し、集団生活を通して個々の幼児の自主性を育て、豊かな心情、よき生活習慣や人間関係に向かう意欲、態度を培う。

1. 今後3年間で達成することが必要と思われる評価項目と取組み年度

1. 本園の保育の再確認	平成20年度
2. 園の施設、設備遊具等の安全点検、改善のための体制づくり	
3. 園の施設設備の総点検と改築計画の立案	
4. 子育て支援、家庭支援体制の再構築	平成21年度
5. 教育要領の共通理解と本園の教育課程の見直し	
6. 小学校との接続期の保育、幼小連携のあり方再確認	
7. " " 改築計画開始（事業説明会、相見積もり検討、業者の選定他）	
8. " " 改築計画検討（基本設計、保育計画、資金計画、各種届出他）	平成22年度

2. 本年度重点的に取り組むことが必要な評価項目とその設定理由

1. 本園の保育の再確認
ア. 今年度は新卒、新任の保育者が多いため、再度本園の目指す方向を確認しながら保育を進めていく必要がある。各学年のリーダーを中心に、指導計画や記録の作成に際して、常に本園の保育の原点を確認し合う。
イ. 複数担任制の利点やフリー教諭の存在を最大限に生かす体制ができているか。新人の多い今年度は保育の援助指導面と管理面をどのように分担するかといったシステム作りと同時に、望ましい人間関係作り双方が必要である。
2. 園の施設、設備、遊具等の安全点検、改善のための体制づくり
ア. 全面改築後20年を経過した時点で、施設、設備、園庭遊具等の安全を、常時定期的に確認し、少しでも危険が予測される場合には速やかに改善するためのチェック体制を構築しなければならない。
イ. 火災、災害等の発生に際して園児、職員はじめ園内の人々の安全を確保するために、通報、安全確保、避難、保護等の方法、手段を再確認する。
ウ. 不審者、侵入者等から園児をどう守るか、通報も含めて防御体制づくりをする。
3. 園の施設設備の総点検と改築計画の立案
ア. 平成23年度の開園60周年記念事業として園舎の一部改築、全面的なリフォームを計画しており、その基本プランを下記のように設定した。
a. 財務状況と資金計画
平成7年度にそれまで借地であった園地を買収し、資金を東京都私学財団より15年の返済期間で借り入れた。さらに平成19年度には預かり保育、未就園児保育等地域の子育て支援のための施設を建築し、必要となった運営資金を5年の返済期間で借り入れたが、双方の借入とも平成22年度を持って返済を終了することとなる。会計士の指導監督によって行われている毎年の会計監査においても財務状況は健全であると評価されており、新たな借入金と自己資金で賄い切れる範囲の改築、リフォームを計画している。
b. 改築およびリフォームの概要
・ 全室の冷暖房機器の交換。
・ B棟の外階段の構造が使いにくく、さらに雨天時に浸水するため、階段全体を改造する。
・ すべての洗面所の便器、洗面台の交換。内装、および証明の改善。
・ 園内全面のバリアフリー化。
・ A棟屋上庭園の再整備。
・ その他園庭を含む諸設備の再整備。
イ. 開園60周年記念改築リフォームに際しての保育計画の基本プラン
a. 工事期間は概ね平成23年7月中旬から同年9月中旬の2ヶ月間とし、1学期、2学期の保育日程を調整して幼稚園教育要領に規定されている年間39週以上の保育日数を確保する。
b. 当該年度の保育にあたっては、園児および園内に出入りするすべての人々の安全を確保し、かつ円滑に事業が行われるよう全教職員が一致協力し、さらに保護者、地域住民などの協力を仰ぐものとする。
c. 当該年度の保育にあたっては事業の計画や内容について、保護者や地域に対して正確、かつ迅速に周知し、協力を仰ぐとともに、安全や日常の生活に支障をきたすことのないよう努めるものとする。

3. 学校評価の具体的な目標や取り組み方

項目	内 容
1 - ア	週1回の学年打ち合わせ、学年の期案の作成に園長、主任も参加し、週や期の記録を発表し合い、次週、次期の計画の要点を確認し合う。
1 - イ	週1度の学年打ち合わせ、また職員会議では、常時各学級、学年の保育者の動き方について反省を行い、改善すべき点があれば速やかに保育の中で実践する。
2 - ア	安全点検チェック表、点検分担表の作成。迅速な連絡と危険回避手段、改善の方策を確認し合う体制づくり。
2 - イ	1. 火災、震災を想定した安全確保、避難誘導及び保護者への連絡、引渡し訓練の計画、実行。 2. 一時避難生活を見込んだ飲料、食料、薬品、寝具等生活用品の確保と管理。
2 - ウ	学校110番通報方法の周知。一時的に園児を避難させたり不審者、侵入者から遠ざけたりするための方策を検討。

4. 重点項目の自己評価

項目	評 価
1 - ア	本年度4月から取組みの最中であり、成果ははっきり出ているとは言えないが、新人達は話し合い等の理論的な面はともかく、経験者と一緒に動くことで徐々に本園の考え方、保育方法や得意技といったものを肌で感じ取り始めた段階のようである。
1 - イ	個々の学年、学級で状態は様々であるが、呼吸の合わせ方がやっと分かってきたところ。今後の課題としては、言葉を交わさなくてもお互いの意図を読んで動けるような連携体制が取れることに目標をおく。
2 - ア	現在園内のチェック項目に掲げるべき場所、物を共通理解している段階。これを見やすく、点検しやすい項目に整理するのが課題。
2 - イ	ここ数年は年3回の火災避難訓練、3回の大規模地震避難訓練を、室内にいる時、戸外にいる時、プールに入っている時等いくつかの状況を想定した訓練を行っており、点呼、不明者の搜索とチェック体制は現時点ではほぼ漏れがないと思われる。
2 - ウ	園の立地条件（南面が広く道路に接しており、極めて見通しがよく開放的）から、こうした事態は起こりにくいのではないかということから対策が遅れている。今後本園に合った対策を検討していかねばならない。
3 - ア ～イ	60周年記念改築事業についてはまだ大まかな計画があるだけだが、今後の園運営の状況や社会の変動等を適切に分析、把握しながら細部について具体化していく予定である。

幼 稚 園 関 係 者 評 價 表

評価年月日 年 月 日 評価者ご芳名()

評価項目	評価（本園の行った自己評価の内容についてご意見、ご感想を自由にご記述下さい。）
1 - ア	
1 - イ	
2 - ア	
2 - イ	
2 - ウ	
3 - ア イ	
本園の行った自己評価について、上記以外のご意見、ご感想がありましたらご記述下さい。	

ご協力有難うございました。 いただいたご意見、ご感想を本園の今後のために有効に活用させていただきます。